

社

告

工事畫報は愈々来る六月一日號を以て満壹百號を數へることになりました。思へば大正十四年二月創刊以來、茲に九年、その間未曾有の不況に會しながら、然も我社の微力を以てしてよく今日まで刊行を繼續して來れましたことは、斯界先輩諸彦の深甚なる後援と、愛讀者各位の熱烈な御支援による處であります。社員一同深く感謝いたして居る次第で御座います。

かえりみますと、私共が工事畫報を創めました當時は、彼の關東大震火災による帝都復興事業の最中で、一般工事界にも世界的に誇るべき多數の大工事が、次々と着手され竣功し、實に我國の工事界が、その設計理論に於て現場の施工法に於て、空前の進歩を遂げた時代であります。私共はそれが忠實なる報道者としての立場から、つねに全誌を擧げて全國、否全世界に向つて進歩の跡を報告して參りました。然して此處に、私ども自身の業績が次號に於て満壹百號に到達することになつたのであります。

本誌は茲に自身の足跡をかえりみ、併て我國工事界十年の進歩を回顧したく、次號を「工事界十年の回顧號」として特輯し、いさゝか讀者諸彦の不斷の御聲援に酬ひ度いと計畫致して居ります。就きましては私共の微衷を諒され、この企てをして旺盛ならしむべく、下記に就て一人でも多くの讀者からの御投稿をお願ひ致します。

1. 日本の工事界は過去十年間にどんな進歩をとけたか、貴下の御氣づきの點。
2. 過去十年をかえりみて、將來の工事界に何を望まるゝか、貴下の御希望。

以上はハガキでも適宜の用紙でも結構ですから、五月十日までに御投稿下さい様お願ひする次第であります。

工事畫報社同人

